

World Bosai EXPO 2025 参加報告

小松原 純子¹・宍倉 正展¹・藤原 治²・宮地 良典³・田村 亨³

2011年の東日本大震災をきっかけに、2015年3月に仙台で開かれた第3回国連防災世界会議で「仙台防災枠組2015-2030」が採択されました。これは世界の国々が防災・減災に取り組む指針となるもので、政府・自治体のみならず市民や企業など広く人々に関わる内容になっています(<https://sendai-resilience.jp/sfdr/> 閲覧日: 2025年3月12日)。この枠組を推進する一つの施策として2017年からWorld Bosai Forumが仙台で開かれており、第4回のWorld Bosai Forum 2025は、気候変動による災害リスクをテーマとして2025年3月7～9日に仙台国際センターで開催されました(期間中の延べ参加人数5,434名)。World Bosai EXPOはこの第4回World Bosai Forumの一部として3月7～8日に開催されたイベントです。仙台国際センター会議棟2階「桜」にて、全国から46の企業、教育機関、研究機関等が出展し、防災に関する技術や取組を紹介しました(第1図、第2図)。

産総研地質調査総合センター(GSJ)は防災に関する研究をアピールし関係機関などとの連携を推進するため、このWorld Bosai EXPOにブース出展しました(第3図)。展示ポスターはGSJの紹介、防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業の成果、メコンデルタの海岸侵食に関する研究の紹介からなり、非日本語話者の来場に備えて英語で作成されました。またPCやタブレットで地質図Naviや活断層データベースの紹介も行いました。

初日は同じフロアの複数の講演会場で防災に関する講演(英語)が行われており、英語話者の防災に関する専門家によるブースの訪問が多い印象でした。2日目は隣の展示棟で仙台防災未来フォーラム2025が開催されていたこともあり、一般の市民の方にも多く来ていただきました。

毎年開催されるイベントではないため当日参加するまではどんな雰囲気なのかわからなかったのですが、防災用品や耐震技術の展示に加えてプロジェクションマッピングで



第1図 World Bosai EXPOが開催された仙台国際センター会議棟。

1 産総研 地質調査総合センター連携推進室

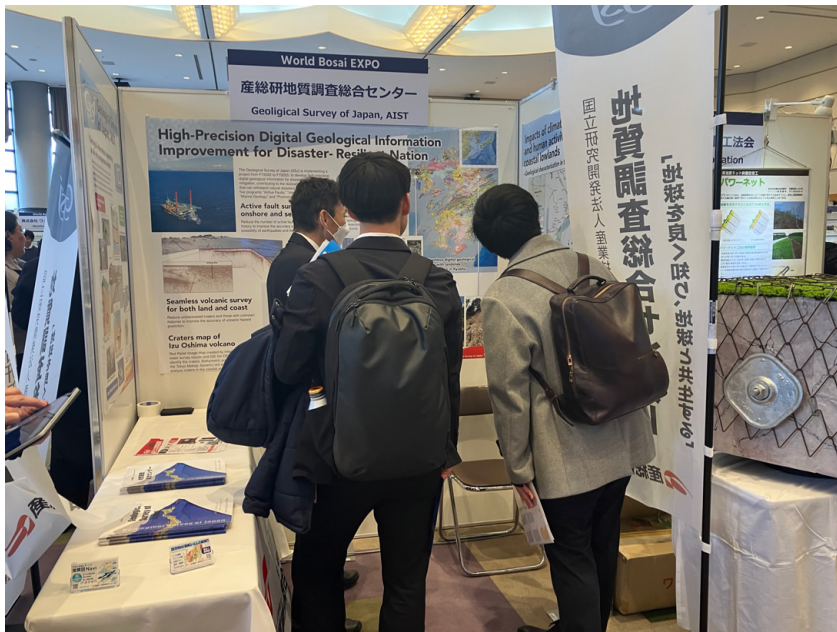
2 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門

3 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード: 防災, 仙台, 展示会, World Bosai Forum



第2図 World Bosai EXPO 会場入口.



第3図 GSJの出展ブースの様子.

津波浸水を表現したブースや地震の揺れを再現した体験型のブース、高校や大学での研究成果の紹介、2011年東北地方太平洋沖地震の津波災害の3D映像アーカイブなどブースの内容は多岐にわたり、防災に関する市場や研究現場のスナップショットを見ることができました。ブースの見せ方、来場者へのアピールのしかたなど、今後GSJとしていろいろな展示会へ参加する際に参考になることがたくさんありました。来場者も、特に2日目は企業の人、家族連れ、高校生など、いろいろな属性の人で会場はにぎわっており、防災への関心の高さを伺うことができました。記念品としてあちこちのブースで携帯トイレを配っていたのも印象的です。

GSJが社会に提供する地質情報は防災という枠組では上流にあたります。今回のWorld Bosai EXPOでは現場に近い様々な取組が紹介されており、現場と上流を具体的にどのようにつないでいくのが課題であると感じました。当初目的であるGSJのアピールに加え、社会への関わりについて改めて考えるきっかけになり、得るものの多い出展であったと思います。

KOMATSUBARA Junko, SHISHIKURA Masanobu, FUJIWARA Osamu, MIYACHI Yoshinori and TAMURA Toru(2025) Participation report on the World Bosai EXPO 2025.

(受付：2025年3月17日)